

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	保育所等訪問支援事業所つくしんぼ		
○保護者評価実施期間	令和6年10月29日		令和6年11月29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	64	(回答者数) 41
○従業者評価実施期間	令和6年10月29日		令和6年11月29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○訪問先施設評価実施期間	令和6年10月29日		令和6年11月29日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	36	(回答数) 27
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	母体施設が幼児の通園施設であることから、幼稚園、保育園、こども園への支援について施設の特徴を理解しながら支援することができる。	幼児期に必要なとされることを訪問先と一緒に考え課題を抽出し、具体的対応を考えるように心がけている。	現在の取り組みを継続する。
2	個別支援と訪問先職員への助言を、保護者、訪問先の希望を確認しながら組み合わせ、対象児の生活・社会性スキルの向上と、訪問先職員の保育、教育活動上の選択肢が増やせるような支援が行えているのではないかと考えている。	保護者、訪問先、相談支援専門員の意見を幅広く確認し、訪問先の生活、課題にフィットする形の支援を実施できるよう心がけている。	現在の取り組みを継続する。
3	日常生活動作、コミュニケーション、社会性についての評価を細かく実施したうえで、目標の設定を行っている。具体的に課題を解決するための方策を、保護者、訪問先と共有しながら支援を実施するようにしている。	事業所で準備している、アセスメントシートの活用と共に、訪問先の様子をよく確認するなど、インフォーマルなアセスメントにより情報を多く、細かく確認できるよう心がけている。	現在の取り組みを継続する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	現在利用希望の問い合わせが増えてきているが、人材を何とかやりくりして対応している。	人材をそろえることの難しさ。経験は必要、でも職員は急には用意できない。対外的なお仕事をすることになるので、いろいろな意味でスキルのあるスタッフを用意しなければならない。	現在の取り組みが維持できる範囲で、少しずつ職員の準備を進めていきたい。
2	フォーマルなアセスメントを実施する時間的な余裕がない。	インフォーマルな評価を中心に対応を進めるしかないと考えている。訪問先での生活、適応が課題になるので、インフォーマルな評価、情報の収集が重要になると考えている。	とはいえ、フォーマルな評価をどのように取り入れていけるか、職員の過度な負担にならないよう検討していきたい。
3	業務上、訪問支援員が単独で行動することが多く、担当する児童のことを一人で対応することが多くなる。	1人の利用児のことを考える時、担当職員が自分で考え支援を進めると言うことは非常に重要で、また逆に担当職員が色々な意見を聞きながら支援を検討すると言うことも大事だと考えていて、それをどのように整えていくのが課題。	職員の負担を過度に増やさず、職員が担当児の特性に基づく生活上の課題を把握・理解し、利用児への直接的な支援、訪問先職員への助言、保護者へのフィードバックがより内容の濃いものになるよう検討をしていく。